

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東北大学	整 理 番 号	1 9 0 1
プログラム名 称	変動地球共生学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中村 美千彦
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨を踏まえ、当初策定された計画が開始されており、一部コロナ禍により変更が余儀なくされている取組があるものの、順調に開始されている。 ・専門外の科目の履修の実施、専門外のメンターの配置、所属研究室とは別の研究室に所属し、また「産学共創課題解決プログラム」と位置付けられている I-Lab(Integrated Science Lab.) の実施は、狭い専門分野に留まることなく多角的視点を育成するのに有効であり、学生もその有効性を実感し、機能している。 ・新型コロナウイルス感染拡大の中でも、様々な工夫によってプログラムを遂行している。具体的には、国際知育成研究にてリアルな国際学会への参加の代替として、教務委員が精査した Web 国際学会やウェビナー等への参加を活用している。 ・学生への経済的支援は特に新型コロナウイルス感染拡大の中で極めて重要である。細かい点に改善の余地はあるものの、一部支援を増額するなどの措置を含めて概ね適切に行われている。 <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あらゆる境界を越え、創造的で活力ある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育の展開」の標語の下、本プログラムや他の卓越大学院プログラムなどを有効に活用して引き続き計画的に全学的な大学院教育システムの改革を展開していくことを期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムにおける博士前期課程の学生に対する経済的支援は少額に設定されており、受給者はアルバイトが禁止されている。博士前期課程の学生からは生活費の悩みなどが挙げられており、履修生がプログラムに専念できるような経済的支援を行うことが理想ではあるが、そうでない場合は、大学院教育に支障のない範囲で規制を撤廃することも含めた工夫をすることが望ましい。 ・学生への経済的支援のための資源の確保はこの先極めて重要となると考えられるので、有効な計画の実施が望まれる。 ・英語学習の充実について学生が強く必要性を感じており、他の学位プログラムでは実施しているケースもあるとのことなので、大学院でのプラクティカルな英語学習の実施を検討されたい。 ・今年度入学した M2 と D1 の学生は短期間で多くの事項を達成することが要求され、負担が大きいように思えるので、弾力的な対応について更なる工夫が必要である。 ・プログラムの詳細スケジュールや事務的事項の報告・告知等について、学生への周知を早めに行うことができるよう、本プログラムの事務局と支援事務室が一体となった改善が望まれる。 ・メンターとの意見交換は学生にとって非常に有益な機会として受け入れられている。学生の希望に基づき配置されているとのことだが、学生自身の研究を強化する視点からも学生とのマッチングを十分に考慮して選定することが求められる。 			

- 理系分野に重点を置いたプログラムであるため、人文・社会科学分野の学生のフォローアップが望まれる。
- プログラム担当者には人文・社会科学分野の教員も含まれているものの、本プログラムのテーマにとって不可欠であるはずの地域コミュニティ研究や社会調査などの人文・社会科学分野の研究領域のカリキュラム上の存在感が希薄であるという印象を受けた。科目設定に関して、テーマに即した形での文理融合の拡充をさらに検討することが必要である。
- プロジェクトに参画する連携先企業数や海外大学がまだ少ないようであるが、企業や海外大学との対話は学生にとって様々な考え方を吸収する良い機会であるので、今後、予定通りに拡充を図ることが望まれる。
- これらの点を改善することなどにより、本プログラムの卓越性を可視化するための一層の努力を期待する。